

新型コロナ「困りごと」お聞かせくださいQ & A【飛騨市公式ホームページ】

【令和3年8月分】

8月17日～8月24日分（件数：1件）

1. 医療体制について

Q 子供が39度の高熱を出し、かかりつけ医に相談したところ、発熱外来はいっぱい本日診れない。翌日も、コロナワクチンの日なので診ることができないと断られました。他の町医者にも順番に電話をしたものの、かかりつけ医にご相談を、同じく、ワクチンの日なのでみれません。...と断られ続けて、39度を超える子供を結局どこもみてもらえませんでした。飛騨でもこんなにたらい回しにあうなんてびっくり。子供の熱は下がったものの、どこの病院でも受け入れてもらえないなんてとても怖かったです。ワクチンが大事なのは分かりますが、熱で苦しんでいる子が、ワクチンのせいで全く受け入れてもらえないのは...。とても怖い現実を知りました。子供じゃないなら、と言われる病院もありましたので...子供の高熱の時に相談できる場所を何か分かりやすくしていただくなど考えていただきたいです。（保健所にも電話をしましたが解決しませんでした）

A このたびは、お子様の高熱時に医療機関に円滑に受診できず、大変ご心労の多い状況であったと思います。市ではコロナワクチン接種を個別接種として各市内医療機関で行っていただいておりますが、ワクチン接種もピーク時でこのような状況になりご迷惑をおかけしました。地域の開業医もワクチン接種含めそれぞれ精一杯ご対応いただいておりますのでご理解いただければ幸いです。救急的な対応については地域の開業医の対応にも限界があるため、飛騨市では下記のとおり高山市と協力し、飛騨医療圏の広域的対応によりカバーしております。

【お子様など急な病気の際の受診方法】

- **飛騨市地域救急医療情報センター**（☎ 0577-74-3799）
飛騨市消防本部で医療機関受診の相談対応
- **子ども医療電話相談ダイヤル**（☎ #8000）
岐阜県総合医療センターの医師等が救急病院に受診するかの有無をアドバイスされます
- **高山赤十字病院** 24時間365日対応
緊急で重症な方の対応受入
- **高山市休日診療所（高山市役所隣）**（☎ 0577-35-3175）
休日の日中の受診
- **飛騨市民病院**（☎ 0577-35-3175）
一般的な夜間救急対応

※上記の情報の詳細は、市内の子育て家庭へ配布している「飛騨市子育てガイドブック」（16ページ掲載）や市ホームページに掲載していますので、一度ご確認ください

これら医療機関の運営には飛騨市からも支援しておりますので、飛騨市民でも遠慮なくご利用いただけます。

市といたしましては引き続き緊急時の医療体制の維持・改善に力を入れていくとともに、緊急時に必要な連絡先等の情報のわかりやすい広報を検討していきますので、またお気づきの点がございましたらご意見いただけたら幸いです。よろしくお願いたします。

【問】 地域包括ケア課 ☎0577-73-6233

8月17日～8月22日分（件数：1件）

1. 感染拡大地域からの来客対応について

Q 接客業従事です。「飛騨市は感染者数が少ないので来ました。営業してるみたいなので来ました」と、東京、大阪、兵庫など県外のお客様から言われながら、仕事しており、不安で不安で仕方ありません。営業継続するののかの質問に対し、「市からの休業要請がない限り、休まない」と。他の従業員も不安しかないが、生活があるので休むに休めないと話しています。気が狂いそうなほどの感染対策をしています。ワクチンもまだです。どこへも外出していないのに、多数の感染爆発地域の人達と接触しているという矛盾に、どういう心持ちで仕事をしたらいいのか私にはわかりません。せめて、せめて、県外の人に、飛騨市へは、来ないようメッセージするとか、緊急事態宣言発令中地域からはお断りするような統一した対策を、市として、取れないものなのでしょうか。

A ご意見ありがとうございます。さぞご不安なこととお察しいたします。
市におきましては、国や県で発出される緊急事態宣言やまん延防止措置に従い、飲食店等への時短要請を行っているところですが、休業要請は、新型インフルエンザ等対策特別措置法による国の緊急事態宣言が岐阜県に対して発出され、それにより岐阜県知事から要請されるものであり、市が要請する権限はありません。
市では、状況に応じてメッセージを発しており、8月6日に市長が市民の皆様やそのご家族に県境をまたぐ移動の回避・延期の呼びかけをお願いしたところです。
しかし、お願いだけでは人流を100%止めることは難しいことから、水際対策として8月13日から「飛騨市新型コロナまちなか簡易検査センター」を開設し、事情があつて飛騨市へ訪れた方が抗原定性検査キットを用いて無料で自己検査を行っていただける体制を整え、市内での感染を未然に防ぐことに努めているところです。
ワクチンにつきましては、接種を希望される12歳以上の方の予約を9月上旬までに済ませ、10月上旬までに2回目の接種を終えられる見込みとなっていますので、今しばらくお待ちください。
投稿者様には不安な日々をお過ごしかと存じますが、基本的な感染対策はワクチンを接種した後も必要ですので、ご自身や大切な方を守るためにも引き続き感染対策をお願いします。

8月11日～8月16日分（件数：2件）※うち1件は個人へ回答

1. ワクチン接種の予約確認について

Q ワクチン予約したのですが、予約が確定したのかどうかわかりません。また、確認画面が消えてしまうのでいつ予約したかわかりません。予約が確定した情報を何らかの形で確認することはできないのでしょうか？ よろしくをお願いします。

A 市では現在、コロナワクチンの予約をインターネット予約とコールセンターでの電話予約で受け付けしています。
いずれの予約方法でも、予約をされた方には1回目と2回目の予約日時と接種医療機関を記した「予約確認ハガキ」を遅くとも1回目の接種日の2日前までに全員に送付させていただいています。
また、インターネットで予約をされる場合は、メールアドレスを予約時に入力していただくことで、即時にリマインダーメール（予約確認メール）が送られる仕組みにしています。
予約確認ハガキや予約確認メールが届いていない場合は、お手数ですが飛騨市新型コロナウイルスワクチン接種予約コールセンター、電話 0577-62-9030 へお問い合わせください。

8月4日～8月10日分（件数：3件）

1. 無症状者のPCR検査等の助成について

Q 飛騨市でPCR検査が受けられるようになったと聞いて、愛知県から帰省予定の息子の検査をお願いしようと思いました。予約をしようと思い合わせてみると、帰ってくるのが土日祝日だけなのに、休みの日は対応がないとのこと。新たな蔓延防止の通達もあり、夫の仕事の関係もあつて帰省を諦めるよう泣きながら伝えました。少しでも安心して過ごさせたいと思っていたのに、とても残念です。土日祝日の予約はできないのでしょうか？

A 投稿者様には今回苦渋の思いをされたことと存じますが、慎重な判断をしていただきありがとうございます。ごさいます。
市内医療機関におけるPCR検査について、市内には医師が1人という小さな医療機関が多く、一般診療とワクチン接種への対応により、土日祝祭日に検査を行っていただくことは困難となっています。
また、市では検査体制をさらに強化するため、飛騨市民病院の巡回診療という形で、PCR検査よ

り精度は劣りますが、抗原定性検査キットを用いて自己検査ができる「新型コロナまちなか簡易検査センター」を8月13日から9月30日まで古川町若宮町地内に開設し、1日あたり50人程度を検査できるようにしました。ただし、こちらでも検査できる日は看護師等の専門職の人員確保の問題もあり、毎週月、水、金となっています。(飛騨市ホームページからの事前予約制)

今後、検査をより受けやすくできるように、さらに考えてまいりますので、ご理解、ご了承をお願いします。

なお、検査は帰省先の飛騨市だけでなく、全国の医療機関で実施しているところがあり、精度は様々ですが市販の検査キットもあるようです。有料がほとんどなのですが、コロナとの長期戦を想定し、帰省前に検査を受ける方法をご検討されることもお勧めします。

2. 飛騨市新型コロナウイルス対策本部会議結果の公表について

Q 困りごとではありませんが、新型コロナ対策について、定期的に会議されているようですが、それぞれの具体的内容が、わかりません。報告内容について、もう少し見える化して頂けないでしょうか？市民への情報共有とともに、間違った風評防止につながると思います。

A 個人情報保護に関する内容を除き、要約を公表していきます。

3. 市長のメッセージについて

Q ワクチン接種で死亡率がこれだけ下がっている中、なぜ帰省の自由を奪うのか理解できない。若い人の死亡率は交通事故より低い。インフルエンザと同等の対応で十分だ。治療薬が無いのは事実だが、懸念のある人が自主的に控えたらいいだけの話である。人の心もそろそろ我慢の限界だ。データをみて科学的な根拠のある対応をしてもらいたい。

A 新型コロナウイルス感染拡大防止にご協力を賜りありがとうございます。現在、新型コロナウイルスの感染が爆発的に拡大し、岐阜県も1日の新規感染者が300人を超える状況にあります。第5波の特徴としては、ワクチン接種が進んでいる60代以上の高齢者の感染者割合が10%以下と減り、まだ接種していない30代以下の年齢の感染者が約7割を占めています。

高齢者と比べ重症化は少ないものの、厚生労働省ホームページ及び国立感染症研究所提供資料によると、新型コロナウイルスの致死率は約1.0%であり、季節性インフルエンザの致死率(0.02~0.03%)と比べて、約30~50倍という高い致死率となっています。

また、一般的に、肺炎などを起こすウイルス感染症の場合は、症状が最も強く現れる時期に他者へウイルスを感染させる可能性も最も高くなりますが、新型コロナウイルス感染症の場合は、発症の直前・直後で特にウイルス排出量が高くなるため、無症状病原体保有者からも、感染する可能性があります。厚生労働省のデータの分析でも、若年層は重症化する割合が非常に低く、感染の状況が見えないため、結果として多くの中老年者や重症化のリスクが高い方に感染が及んでいると考えられています。

岐阜県発表資料によれば、実際、このお盆期間で感染拡大地域から岐阜県内に帰省し、家族や親族に感染した事例が複数発生し、クラスター構成は多い順に家族38%、職場29%、会食13%となっています。

また、岐阜県の1日の感染者数が今の半分の150人くらいだった5月の第4波感染拡大時期には、飛騨地域ではコロナ患者用の空き病床がわずかになるまで逼迫した状況になったほか、一部医療機関では一般診療への影響が出ました。都市部では救急搬送先がいっぱいで搬送が遅れたり、酸素吸入器が不足する事態も起きており、コロナ感染者以外の患者へのリスクもあります。日本の致死率が低いのは他国と比較して水準の高い医療へのアクセスが良い事によりですが、医療が飽和すれば、(コロナ以外のあらゆる疾患を含めて)無医療に近い死亡率になるため、大変危険な状況になると考えられます。

そうした中、全国的に県境をまたぐ移動の自粛や延期が求められていますが、帰省や旅行など移動をするかは個々の判断となります。やむを得ず出かける場合は、人混みや会食を避けるなど工夫をお願いします。そして、家族や地域への感染拡大を防ぐため、帰省前後に検査をして、感染していないことを確認して移動することをお願いします。